

仙台市議会
議員

鈴木ゆうじ



市政活動報告 令和2年春季号

発行：鈴木勇治事務所
電話：244-7308
〒：982-0805

令和2年度予算を可決

コロナ感染症拡大防止策の徹底を！



令和2年第一回定例会は、令和2年2月7日から3月12日まで開催されました。令和2年度当初予算案や条例案など63件の議案が審議され、全て可決しました。元年度の一般会計補正予算では、国の補正予算に対応したもので、小中学校でのタブレット教育を進めるための市立学校の通信ネッ

トワーク環境整備に48億円余、台風19号で被災した農家の作付補助に4300万円をはじめ道路維持改良や公園整備、高速鉄道や震災復興新庁舎建設基金への増額など計145億円余を計上されました。減額するものは令和元年度から令和2年度への予算の移し替えが64億円余、消費増税に伴う低所得者、子育て世帯向けプレミアム付商品券事業費▲約48億円、地域産業金融支援が▲15億7000万円など不用額▲約150億円などにより差引約69億円減額補正となりました。

は2・7%、15億円余減の約5411億円が計上されました。特別会計は106億減の3064億円、企業会計は46億円減の2313億円となり、合計は9年連続の1兆円超えの1兆788億円となりました。二〇二一年から三年度の財政見通しでは、社会保障費や公共施設の更新経費等が膨らみ、889億円の財源不足が試算され、厳しい財政運営であることが浮き彫りになっています。

また、予算等審査特別委員会を設置し、令和2年度当初予算案や関連する条例案などについて議論を展開しました。特に新型コロナウイルスについては、会期を通じ、感染の拡大防止に向けた迅速な対応や、市民生活への影響を最小限に抑えるための施策について、当局に確実な実施を求めました。さらには、2月31日に国内初の死者が確認されたことを受け、直ちに国に対する意見書「新型コロナウイルス感染症対策の徹底を求める件」を全会一致で可決しました。さらに、「介護人材の確保」と「中高年層のひきこもりへの支援」の2件についても全会一致で可決し、国会および関係行政庁に提出しました。

私は、本市議会の議長として、様々な課題や状況の変化に即応した的確な対応に努め、市民皆様の安全・安心のため、万全を期してまいります。今後とも指導宜しくお願いいたします。

県議選と市議選 日程統一の協議へ

東日本大震災の影響で日程が分かれた宮城県議選と仙台市議選の再統一に向け、石川光次郎県議会議長と私が1月22日、市議会棟内議長室で初の協議を行いました。日程統一することは、経費節減や低減しつつある投票率の改善につながるとの認識を共有。日程変更を

可能にする特例法の制定などを総務省に働き掛ける方向で申し合わせた。意見交換は約1時間、非公開で行いました。同様に震災で春の統一地方選から外れた県内各市町村議会、また岩手、福島両県にも同意を得るべく働き掛け進める考えで一一致し。これまで消極的であった地元選出の国会議員に協力を求めることとしました。

の西沢議長や次期を受けた岡部議長が積極的に取り組み、国、政党、国会議員等の各方面に働き掛けを行ってきたものですが、地域や政党間の温度差を解消できず協議を一時中断した経緯がありました。当時の状況を踏まえ、今回の意見交換を契機に機運醸成や議論を本格化させる考えです。また、全国市議会議長でも地方選挙の再統一をすることを求めています。

第2回市・県調整会議に出席

知事、方針の正当性を強調、これまでの姿勢を崩さず

老朽化する県立美術館や東京エレクトロンホール（宮城県民会館）など仙台市内の県有施設宮城野区の仙台医療センター跡地に移転再編する県の方針をめぐり、仙台市・宮城県調整会議が開催されました。

この会議は地方自治法の規定に基づき、政令指定都市及び都道府県が、それらの事務処理や施策について必要な協議を行うことを目



的に設置されるものであり、知事、市長、両議会議長の4名の出席のもと開催されるものです。平成26年に第一回が開催されています。冒頭、県の担当者、**村井知事**が再編の基本方針案を説明し、今後の県の財政縮小を見据え、県有施設を集約化する意義を強調いたしました。

市長は、市民から方針案への反対意見が相次いでいることから、「県有施設再編は、市のまちづくりにも大いに影響がでる」としたうえで「住民や専門家と議論し県民に見えるかたちで検討を進めることが重要」と求め、「県民・市民の声を踏まえ丁寧に検討を進めてほしい」と注文をつけた。

私は、県民会館について、国分町や一番町等の周辺にもたらしてきた経済波及効果は大きく、跡地の利活用の在り方は県市のまちづくりにとつても重要なことだ。美術館については、当初



県教委が現地改修案を示していたことが、何故、変更になり移転へと方針転換したのか理由が不鮮明である。また市民団体などが建物の存続を求めている現状を踏まえ「県の方針転換と進め方はあまりに拙速ではないか」と注文を付けました。

村井知事は美術館の移転案について「建物と美術品は別に考えるべきだ。多くの県民に気軽に芸術品に触れられる環境に立地することが重要だ」としたうえで「今後は市関係者らと意見交換しながら計画を進めた」と理解を求めた。県民会館の跡地活用については「市と連携してまちづくりに活用する方法もある」県は年度内にも県有施設の移転再編についての最終基本方針案をまとめることとしております。と発言し、県民・市民への丁寧な話し合いをすすめることと表明しました。

この会議では、上工下水道の宮城型管理方式、宿泊税も話題となりました。

新年度の取り組み

子ども医療費助成制度の拡充

制度の拡充内容は、より幅広い子育て家庭の経済的負担を軽減するため、本市の財政負担や安定的な制度運営、また、対象となる子どもの割合、他都市の状況を勘案し、所得制限基準の一定額の引き上げを実施する。全体の89%の対象者

勾当台ビジョンの策定

勾当台地区が有する、緑豊かな景観・環境と文化芸術、商業、行政などの都市機能を活かしながら、本庁舎の建て替えや、勾当台公園の再整備、定禅寺通活性化などを一体的に進め、仙台駅周辺と並ぶ都心の拠点として新たな魅力を創出するもの。

不登校対策への取り組み

不登校児童生徒数の増加は、喫緊の課題と認識している。学校や関係機関との連携のもと、杜のひろばなどの居場所づくりとともに、校内においても過ごせる別室登校などの工夫や、相談員を増員し個別の働きかけなど、一人一人の実情を十分踏まえた、児童生徒の支援の充実に務めていく。

地域交通の取り組み支援

現在、燕沢と坪沼地区に加え、新川や秋保地区において、意見交換や課題整理などの検討が進められているほか、他からも相談がある。支援制度の拡充により、多くの地区で地域交通の検討されることを期待しており、地域の実情に応じ、持続可能な移動手段が確保されるよう支援を強化する。

台風被害からのいち早い復旧



茂庭字向根地区市道法面改修



坪沼北原地区農地法面復旧



鉤取笹川農業用取水口改修



茂庭梨野高田地区水田法面改修



太白3丁目佐藤宅法面改修



富田八幡中地区市道舗装改修

この度の台風19号の通過により記録的被害が発生し、14都県391市区町村におよび災害救助法が適用される大災害となりました。

仙台市内各地で内水氾濫や排水機能の不全による浸水被害が多数発生し、国土強靱化と農業基盤強化含め国、県との連携により、早急な復旧事業の実施が求められています。



山田字竹ノ内前私道改修



山田字竹ノ内前私道改修

新年早々元気に始動！
主な行事の様子



1月7日仙台市消防出初式参観



1月4日食肉市場業務開始式祝辞



1月4日中央売卸市場業務開始式



第28回全国救急隊員シンポジウム大会



令和2年仙台市成人式にて祝辞



仙台市老人クラブ連合会交流会



太白区内の功労賞受賞者と記念撮影



令和元年度スポーツ大賞表彰式



議会議長特別表彰聖和学園陸上部



感動と喜びを！
東京オリンピック・
パラリンピック



東日本大震災追悼式 令和2年3月11日

東日本大震災より10年目となる3月11日、宮城野体育館で行われました。

本年は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため規模縮小しての開催となり献花のみの追悼式となりました。

代表献花をいたしました(左から2人目)